

麦病害

1 予報の内容

病害虫名	発生時期	発生量・感染量	予報の根拠
雪腐病	—	やや少	(1) 今年春の発生量は、平年よりやや少なかった。(—) (2) 寒候期予報では、冬期間(12～2月)の気温は、平年並か高く、降水量は、平年並か多い予報。(±)

記号の説明 (++)：重要な多発要因、(+)：多発要因、(±)：並発要因、(—)：少発要因、(—)：重要な少発要因

2 防除のポイント

【雪腐病】

(1) 例年発生する圃場や県北部、高標高地帯などの根雪期間が長い地域では、雪腐病の種類に応じた防除を必ず実施する。

なお、小麦品種の耐雪性は表1のとおりであり、特に「銀河のちから」は、耐雪性が「やや弱」で被害が出やすいので、防除に努める。

表1 小麦品種の耐雪性

品種	耐雪性
ナンブコムギ	強
ネバリゴシ	やや強
ゆきちから	強
銀河のちから	やや弱
コユキコムギ	中

(2) 雪腐病は病原菌が数種あり、発生する種類により防除薬剤が異なるので、表2を参考に薬剤を選択する。

雪腐小粒菌核病(黒色、褐色)と紅色雪腐病が混発する圃場では、同時防除が必要となる。なお、ベフラン液剤25で種子消毒した場合は、紅色雪腐病を対象とした根雪前の茎葉散布を省略できる。

(3) 防除時期は根雪間近(表3参照)とし、タイミングを失しないようにする。なお、フロンサイドSCは残効が長いので、根雪開始の1ヶ月程度前に散布しても防除効果が得られる。

(4) 薬剤散布後の気象状況によっては、再散布が必要な場合があるので、表2を参考に対応する。

(5) 融雪期が遅れると多発するので、春先の消雪促進に努め、圃場の排水を良くする。

表2 雪腐病の防除薬剤(小麦)

農薬名(商品名)	紅色雪腐病	雪腐小粒菌核病	使用時期	再散布が必要なケース
フロンサイドSC	◎	○	根雪前	薬剤散布～根雪開始の期間に積算降水量120mm以上または日最大降水量65mm程度の降雨があった場合
トップジンM水和剤	○	○		薬剤散布後に2週間以上根雪にならなかった場合または30mm以上の降雨があった場合
ベフラン液剤25	◎	○		
バシタック水和剤75 ※ キノンドー水和剤80、オキシンドー水和剤80	○	○		

◎：効果高い、○：効果有り、※：麦類として登録

表3 根雪の目安

地域	根雪間近
平坦部	12月上旬～中旬
山間部	11月下旬～12月上旬